

先週の回答



久しぶりに旧友の山内と一献かたむけることとなった。待ち合わせの居酒屋に先に来ていた山内を見て目をうたがった。当時（高校時代）ラクビー部の主将をつとめ、誰にも負けない精力絶倫を自負していた男が、やつれ果てて泣きながら訴えたのである。

「医者に診せても何の異常もないと言われ、『あんまり気にするのはいけませんな、気長にのんびりしたら、もうあきらめた頃にポコッとできる人もあります』と。けど女房は『これはきつとあんたが悪いのよ。あんた、あの時でもほかのことを考えて、うわの空でやっているからよ』と言い、女性誌の『受胎しやすい時期およびその体位』などをむさぼり読んで『ちやうちやう、ほらこ見』とその婦人雑誌をつき出して『受胎

期間に無念無想で心こめて取りかかる』と命じられるんだよ毎晩。生きた心地せよん。疲れて帰ってきて、『さあ始めましょう』には生きた心地がなくなるのわかるか」と山内は泣き崩れた。周りの客がチラチラこつちを見る。

「そりゃー、医者言う焦らず気長にとりかかればいいじゃん」と慰めるわたしに、

「そう言うよ』そんな悠長なこと言っ、女にはべ切があるのよ！』とオレに喰ってかかるんだよ」とまた涙ぐむ。

「べ切？」

「生理が上がることだよ。女房は二歳年下の三十八、『あと二年のうちに、何が何でも芽の出るタネを蒔け』って責めるんだよ『精力絶倫男かと思っただけど、とんだ見かけ倒しやった』って毒つきおる・・・」

わたしは奥さんの言うのはまちがってると思った。精力絶倫男は外見ではわからない。

トレンディタレントといわれる石田純一は六十三で東尾理子（四十二）を孕ませた。俳人の「春の海 終日（ひねもす）のたりのたりかな」の小林一茶は六十五歳で生まれる子を見ずに逝った。往年の二枚目スター加山雄三の父の上原謙は六十七で二人目の娘をもうけたし、歌舞伎役者の中村富十郎は七十四歳の高齢パパになった。

が、どなたも見えてくれは精力絶倫男ではない。

子づくり。こればかりは精力が絶倫か絶倫でないかに関係なく、叱咤激励されても、一心不乱に不眠不休で力戦奮闘しても、実が結ぶかは天の采配、天佑神助を待つ以外ないのである。

女性にはべ切があるけど・・・。

たしかに
これはない。



